

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番8号		
自己評価作成日	平成25年5月14日	評価結果市町村受理日	平成25年7月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・居間や食堂、居室、廊下は広く、明るくできており、スプリンクラーや火災報知機の設置やエレベーターの定期点検など安全面に十分配慮している。ホーム横には、花壇と家庭菜園があり、入居者様と草花や野菜を一緒に育て、収穫を楽しんでいる。</p> <p>・近隣の保育園との交流があり、園児がホームに遊びに来たり、保育園の運動会や発表会に招待されるなど、小さな子供たちとのふれあいを楽しんでいる。</p> <p>・レクリエーションとしての外食や買物、少人数での喫茶店の利用の他、天気の良い日に近くに花を見に出かける など、外出の機会が多くなるように取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム グリーンピア」は緑の豊かな環境に立地しており、近くに同法人運営の特別養護老人ホーム・身体障害者養護施設がある。3ユニットの3階建の建物内は設備も整い、共有空間は快適で十分なスペースを確保している。系列施設運営で培った方法を活かして平成15年に開設した当事業所の運営者は、各種のマニュアルを整備し、外部研修の他、毎月の勉強会、月2回の会議など、職員の学ぶ環境を作り育成に力を注いでいる。3つの委員会を事業所内に設置し職員の提案などで現場が自主的に取り組めるような体制を作っている。管理者を中心に介護計画作成者は3か月毎に詳細なモニタリング記録を職員と一緒にを行い、利用者・家族の意向を介護計画に盛り込んでいる。また計画に連動させて個人記録を行い、利用者の個別のニーズに寄り添うケアにつなげている。日々の散歩や外気浴、個別の希望に沿った外出支援、法人施設の車両を借りて遠出の外出行事など、外出を楽しめる機会を作っている。利用者は保育園の行事に出かけたり、2か月毎に3～5歳の園児の慰問などがあり、子供達との触れ合いを楽しんでいる。法人系列施設の夏祭りや文化祭に出かけ、参加している町内会の子供会や老人会などの住民とも交流している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(ユニット1アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見える位置に掲げ、またネームプレート裏にも携帯し、常に確認しながらケアを行っている。	運営理念の4項目の中に地域密着型視点を盛り込み、重要事項説明書やパンフレットに記載し周知している。会議や研修会時に理念にある「笑顔のある暮らし」が出来ているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の慰問があったり、施設行事に近隣の方が参加され交流する機会がある。また、施設前の掲示板を活用しホーム内の様子や行事を知らせている。	保育園の行事に招待されたり、2か月毎に3～5歳の園児が事業所を訪問して踊りを披露するなど、楽しい触れ合いの機会になっている。法人系列施設の夏祭りや文化祭に出かけ、参加している町内会の子供会や老人会などの住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて行事や活動内容を報告し、理解が深まってきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員、地域の代表者、入居者様や家族様に参加して貰い年7回行っている。自己評価や行事報告、日頃の活動報告等を通して出た意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議に地域の知見者の参加も得て各報告を行い、防災対策についても意見を交換している。家族にはユニット別に会議の参加を呼びかけ、各ユニットの家族が交代で参加している。議事録は見やすい所に掲示している。	会議内容をさらに充実させたい意向なので、その取り組みに期待したい
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の管理者会議に参加し情報を得たり、市の担当者に電話で相談するなど取り組んでいる。	運営的な事は施設長が市に出向いて担当者に確認している。管理者は、生活保護担当者と電話で連絡を密にし、訪問時には情報交換をして関係を築いている。消防署に協力し、設備などが充実している。当事業所の視察を受け入れたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修参加や勉強会を行い取り組んでいる。玄関の施錠は建物前の交通量が激しく、止むを得ず施錠しているが内部から簡単に開錠出来る仕組みとなっており、家族様の同意も得ている。	内外の研修で身体拘束禁止を学び、拘束のないケアに取り組んでいる。研修で利用者の行動を制限しない対応を学び、言葉かけに注意しながら利用者の思いに沿って支援している。勉強会でマニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」の理解をさらに深めたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり勉強会を行い学んでいる。どのような事が虐待になるのか等を意識し、虐待にならない様、気を付けている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会でも取り上げ、学ぶ機会を設けている。ユニットにパンフレットが置いてあり、いつでも学ぶ事が出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は書面を基に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定の際は、依頼文を発送し理解を得て、必要な項目は同意書を作成している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に、ご意見箱を設置している。また家族連絡帳活用したり、面会時に話を聞き要望等を受け反映させている。	利用者の1週間の健康状態や普段の暮らしを「家族連絡帳」に記載しており、家族の来訪時に報告し、その中で意見を聞き丁寧に対応している。さらに家族の率直な意見を把握するために家族アンケートの実施も検討している。	家族アンケートを検討しているので、それに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に話し合う機会がある。また、いつでも職員の意見、提案等を聞いてくれている。	会議に職員の意見が反映できるように事前に意見などを収集し、会議の議題に載せて検討している。各ユニットの意見を収集し、3つの委員会の各1~2名の担当職員がまとめ、最終的に会議に諮って決めている。管理者は職員の希望や個人的な相談に乗り働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告を受け、勤務状況等を把握してくれており、やりがいを持って働く事が出来る様、環境や条件の整備を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修、職場外研修の年間研修計画に基づいて実施計画が作成されており、積極的に働きかけられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、定期的な市や区の管理者会を通して交流している。職員も研修会等に参加する事で交流する機会を持っている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前に利用者様、家族様の要望や、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をする事で、入居後が安心して生活出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から十分に話を聞くことで、困っている事や不安な事などを把握し、安心していただけるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談の段階で話を聞き、現状の把握を行い、必要な場合は家族様と連絡を取り、他のサービスの利用も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の対応、会話等、コミュニケーションを図っている。人生の先輩として接し、昔の習慣や言葉等を学ぶ事があり、勉強になることが沢山ある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には日々の様子を伝えたり、家族連絡帳を活用して家族様とのコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人来訪時、電話があった時には、ゆっくりして頂ける様配慮している。知人から手紙が届いたり、昔の馴染みの場所等の話はするが、馴染みの方との交流は途切れてしまっている方が多い。	利用者との会話から馴染みの場所などを引き出して家族に伝えている。家族の協力で美容室、墓参り、北海道神宮などに出かけ、可能な限り継続できるように支援している。友人や知人の来訪がある時は、ゆったりした時間を過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の観察や個々に話を聞く事で性格や特徴をつかみ関係を把握し、座る場所等の配慮をしている。職員が間にはいる等し、個々が関わり合いを持って暮らせる様に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りや、家族様からの手紙があったりと、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思い等を把握するようにしている。入居者様の意向に近づけるように検討している。	センター方式のアセスメントシートに、会話や状態から得た情報を追加して介護計画に取り入れている。意思表示が困難な時は、表情などから思いを探ってケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族様からの情報、生活環境など情報収集し記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンをつかんだり、往診時や日々のバイタル測定などで身体状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の思いや希望、家族様の意向などを取り入れ、細かくデータ収集し会議で話し合い計画を作成している。	3か月毎に職員と介護計画作成者がモニタリング記録を行い、モニタリング評価時に更新計画作成の方向で進めている。介護計画に連動した個人記録の方法を勉強会で学び、詳細な記録で計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、事業所独自の職員間の共有ノートがあり情報を共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、理美容や歯科受診、外出支援と柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流やボランティアの受け入れ、近隣の喫茶店の利用など楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の説明をし、同意を得て事業所の協力医に定期的に往診を得ている。また、希望の医療機関への受診も出来るよう支援している。	かかりつけ医の受診時は、家族が同行して結果を聞いている。協力医の往診体制を希望する利用者が多く、来訪時に「家族連絡帳」で往診内容を報告している。歯科の受診が必要な利用者には、職員が同行して協力医を受診している。	

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により看護師と24時間連携体制が取れている。入居者様の変化に応じて相談し、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が窓口となり、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、定期的に面会に行き状況を把握し、ホームでの対応が可能な段階で早期に退院出来る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針があり、入居時に説明している。心身状態の変化時は、随時家族様に報告し、再確認している。	重度化への対応指針に看取りの考えも明記し、利用開始時の説明後に確認印をいただく方向で検討している。状態の変化に応じて家族とも話し合い、主治医の説明の下で入院方向になることもある。退去時には各機関と連携を取り、可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修にて毎年全ての職員が参加し、実践出来る様に身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の方も参加し、年2回消防訓練を行い、消防署員の指導を受けている。	火災以外の地震災害を想定し、職員間で避難場所や居室の安全面を確認している。備蓄品類も確保している。夜間想定避難訓練に地域消防団の他に近隣の参加も呼びかけている。緊急時には近くの同法人施設の協力体制がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、一人ひとりの特徴や性格の把握に努め、それぞれに合う言葉掛けをしている。	入職時研修や内部研修で、利用者に対する言葉使いや接し方を学んでいる。書類の綴り方を工夫し、記録時は、利用者などに見えないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情から思いを察したり希望を聞き、自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同じ立場になったつもりで本人様の気持ちを考え、なるべく希望にそえる様支援しているが、多忙な時は職員ペースになる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、職員が手伝い、おしゃれを楽しめるよう選んでいる。誕生日用の洋服を用意して頂いている事もある。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食材業者が入っているため好みに合わせる事は難しいが、片付けや盛り付け等、入居者様が出来る事は一緒にやるようにしている。	献立は食材業者が作成しているが、利用者の好みに応じて調理方法や味付けを変更する事もある。行事食でチラン寿司にしたり、外食に出かけている。今後も食材業者と相談しながら、利用者の意向を反映させた献立を取り入れていきたい意向である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギーや嫌いな物にも配慮し、米飯量の調整、塩分制限食や刻み食、とろみ食と個々に合わせて提供している。水分量は主治医の助言を基に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、出来ない方には介助し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを把握し、時間で誘導している。夜間は尿瓶の使用や時間誘導を行っている。	日中は、全員トイレでの排泄を支援し、夜間も、立位が可能な利用者はトイレでの排泄を支援している。声かけは他者に聞こえないように配慮し、可能な限り同性介助で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表と温度板を照らし合わせ下剤の調整をしている。乳製品など個別で購入用意されている物や、ココア等、食物繊維のある物を提供する等働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	チェック表を用い間隔が空かない様配慮している。希望時も、その日が可能か検討し希望に沿える様にしている。拒否時は無理強いせず、入浴に嫌悪感が無い様声掛けしている。	午後の時間帯を中心に、各利用者が週2回入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者も、声かけのタイミングや信頼関係の構築により、スムーズに入浴できるようになっている。湯温や入浴順、同性介助などに配慮し、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣など配慮し昼寝を促すなど支援している。安眠出来るよう室温も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果、副作用などの薬情報ファイルがあり理解に努め、症状の変化などの観察が行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割を理解した上で、お手伝いの声掛けや、気分転換の出来る場面作りをしている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を多く設け、食事、買物など外出の機会を作っている。プチ散歩では、出来るだけ本人様の希望も取り入れ出掛けている。	冬季以外の天気の良い日は、近隣の公園に出かけたり、畑や庭先に出て外気浴を楽しんでいる。利用者の希望に応じて、郵便局やショッピングセンターなどに個別に出かける機会もある。外出行事として、お花見や、百合が原公園、篠路神社、大型ショッピングセンターなどに計画を立てて毎月1回は出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事等の外出の際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は書く事が出来ない為、電話をかける支援を行っている。また、電話の取次ぎなど行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口や居間、フロア壁に季節感ある飾りをしている。毎日の掃除で清潔を保ち消臭スプレーの使用等、不快とならない様にしている。	ユニット玄関ドアは、風通しに配慮した格子戸を使用して二重扉になっている。居間には、利用者と一緒に制作した季節の装飾が品良く飾られている。カレンダーに×印をつけて過ぎ去った日が分かるようにするなど、時の見当識に配慮しているユニットもある。ユニット玄関に、利用者が生けた季節の花が飾られ、家庭的な温かさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファの他、食堂で個別に過ごせるように配置されており、気の合う方々と過ごせる様に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファや椅子、筆筒、好みの飾りやアルバムなど、居心地よく過ごせるようになっている。	各居室には、造りつけの棚とベッドが整備されている。姿見や手鏡、タンスなど使い慣れた品を持ち込み、落ち着いて過ごせるように工夫している。壁には、習字や塗り絵などの利用者の作品、家族の写真などが飾れており、その人らしい個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレの大きい表示と分かりやすく工夫している。居室はクッションフロア、廊下やトイレには手すりを設置されて安全に過ごせるようになっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番8号		
自己評価作成日	平成25年5月10日	評価結果市町村受理日	平成25年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット1」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年6月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ユニット2アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、名札の裏側に理念を表示し、共有して実践に努めている。また、毎月の会議で確認し常に意識するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設前の掲示板を利用し行事案内や活動の様子を知らせている。保育園の慰問があり、施設行事では近隣の方にも案内し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等で地域の方に会った時や運営推進会議の時に取り上げる等、活かせる様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員、地域の代表者、入居者様や家族様に参加して貰い年7回行っている。自己評価や行事報告、日頃の活動報告等を通して出た意見をサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の管理者会議に参加し情報を得たり、市の担当者に電話で相談するなど取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設学習会や身体拘束その他、行動制限マニュアルの活用など実践に向け取り組んでいる。玄関は車道に面しており危険な為、家族様の同意を得て施錠しているが、容易に開錠出来る仕組みとなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設学習会で事例を検討するなど学習する機会を多く持ち、理解を深め防止に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会や施設学習会で学び理解を深めているが、現在は必要に迫られた方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は書面を基に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定の際は、依頼文を発送し理解を得て、必要な項目は同意書を作成している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族連絡帳、口頭での意見や要望は事業所独自の申し送りノートを活用する等、運営に反映させている。また、運営推進会議で外部者に表せる機会もある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議で職員の意見や提案を聞く機会がある。また、会議確認書によって前もって会議内容が分かり提案も出来る様になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告を受け、勤務状況等を把握してくれており、やりがいを持って働く事が出来る様、環境や条件の整備を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修、職場外研修の年間研修計画に基づいて実施計画が作成されており、積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的な市や区の管理者会を通して交流している。職員も研修会等に参加する事で交流する機会を持っている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前に利用者様、家族様の要望や、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をする事で、入居後に安心して生活出来るよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から十分に話を聞くことで、困っている事や不安な事などを把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談の段階で話を聞き、現状の把握を行い、必要な場合は家族様と連絡を取り、他のサービスの利用も支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ない事を支援する気持ちで行動し、日々の生活の中で協力しながら関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡帳や広報誌で入居者様の様子を定期的に伝えている。家族様来訪時は、ゆっくり話をして貰ったり、職員が質問に答える等、共に支え合う関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の中には、友人が来訪したり、馴染みの美容室に家族様と行ったりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の動きや会話を観察して入居者様同士の関係を把握している。また、居間ソファでくつろぐ事が多く、皆さんでコミュニケーションが図れるよう支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が窓口となって、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や声掛けにより把握するようにしている。困難な場合は、家族様に相談し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に確認するほか、日常生活の中で少しずつ情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や事業所独自の申し送りノートを活用し、体調の変化や行動など観察し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で日常の情報を集め、入居者様や家族様の意見を聞いた上で介護計画を作成している。また、モニタリングを行い見直しがあれば対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や事業所独自の申し送りノートに記入し情報を共有している。また、ケアの実践、結果などが記録されており、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、理美容や歯科受診、外出支援と柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流やボランティアの受け入れ、近隣の喫茶店の利用など楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に事業所かかりつけ医を説明し、同意を得て定期的に往診を受けている。また、希望で他の病院を受診している方もいる。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、看護師と24時間連携体制が取れている。また、体調の変化等がある場合、報告し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が窓口となり、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、定期的に面会に行き状況を把握し、ホームでの対応が可能な段階で早期に退院出来る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に関わる指針がある。また、重度化や終末期のあり方について、家族様の思いを考慮し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防の救急処置講習会や施設学習会を行っている。マニュアルも確立されていて、常に手の届く所にあり、急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の方も参加し、年2回消防訓練を行い、消防署員の指導を受けている。避難経路がフロアに貼ってあり確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々一人ひとりの特徴や性格を把握し適切な言葉掛けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望の飲み物を提供している。また、2択の質問を用意するなど自己決定出来る様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者様のペースを大切にし、希望に沿う様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配りながら、出来る限り入居者様の好みを活かせる様に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂で職員も一緒に音楽を取り入れ食事をしている。祝日や入居者様の誕生日には、特別メニューを用意し楽しめる様になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分チェックを行い、硬さや大きさ、刻みやトロミなど一人ひとりの健康状態に応じ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔の声掛けや口腔ケアの介助をし、夜間は洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様に合わせた声掛けを行ったり、排泄チェック表により排泄パターンを把握し促す事で、失敗やオムツの使用を減らせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、入居者様に合った下剤により排便コントロールされている。また、運動や水分摂取、根菜メニューにより便秘にならない様になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を見て順番やタイミングを調整し、ゆったり会話しながら入浴出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や体力を理解して休む声掛けをしている。心配事があれば傾聴し、一人で出来ない時は入床介助するなど安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果、副作用等の薬情報ファイルがあり理解に努め、臨時薬や変更時は、症状変化などを観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや行事への参加、外食など楽しんで頂けるよう支援している。また、出来る事を見極め対応している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と出かけたりと、入居者様の希望があった場合は出かけて頂いている。また、日頃は、ホーム前を散歩したり、施設行事を利用し月1階程度の外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を管理できる入居者様がいない為、施設で管理している。買物レク等で使用する際は家族様の同意を得て使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロア内に公衆電話があり、希望があれば対応するようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの調整の為カーテンを閉めたり、刺激になるような音の気配りをしている。フロア内を月毎に、手書きのポスターや植物等で飾りつけ、季節感が出る様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間ソファスペースが広く、入居者様は自由に移動する事が出来る。気の合った入居者様同士が思い思いに過ごせる様に配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染の家具が置かれ、壁には誕生日カードや習字などが飾られ、居心地良く過ごされるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで通路が広く、車椅子同士がすれ違う事が出来る。居室はクッションフロア、介助バーも数多く配置されており、安全に配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番8号		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果市町村受理日	平成25年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット1」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年6月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニットに掲示すると共に、ネームに入れ常に携帯し、いつでも確認出来る様にしている。理念を実践出来る様に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流や、行事等の参加で交流している時もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通しての報告や、行事への参加、ホーム前掲示板の活用で、認知症への理解を深めて頂けるよう、努力はしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員、地域の代表者、入居者様や家族様に参加して貰い年7回行っている。自己評価や行事報告、日頃の活動報告等を通して出た意見をサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市の管理者会議に参加し情報を得たり、市の担当者に電話で相談するなど取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会や外部研修の参加で学ぶ機会を持ち、理解に努めている。玄関の施錠に関しては道路近く危険なため、止むを得ず施錠しているが、内部から簡単に開錠出来る仕組みとなっており、家族様の同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や学習会で学び、また、記事の回覧で職員一人ひとり、虐待の無い様、十分注意し防止に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を行い制度について学び、理解を深めているが、現在、必要に迫った方はいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は書面を基に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定の際は、依頼文を発送し理解を得て、必要な項目は同意書を作成している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や運営推進会議で意見を聞き、運営に反映させている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議で意見や提案が出来る時間を設け、日常的にも都度聞き取ってくれている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告を受け、勤務状況等を把握してくれており、やりがいを持って働く事が出来る様、環境や条件の整備を行ってくれている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修、職場外研修の年間研修計画に基づいて実施計画が作成されており、積極的に働きかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的な市や区の管理者会を通して交流している。職員も研修会等に参加する事で交流する機会を持っている。			

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前に利用者様、家族様の要望や、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をする事で、入居後が安心して生活出来るよう関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から十分に話を聞くことで、困っている事や不安な事などを把握し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談の段階で話を聞き、現状の把握を行い、必要な場合は家族様と連絡を取り、他のサービスの利用も支援している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、一緒に生活する中で、出来る事は行って貰い、出来ない事は支援する事で暮らしを共にする関係を築いている。また、会話の中から職員の知らない事を教えて頂いたりしています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族連絡帳の活用や面会時の報告で、現状を把握して頂き、必要な時は電話や面会を多くして頂くなど協力して取り組んでいる。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人となると、ほぼ家族様のみとなっているが、一部の人は親戚や知人の来訪もある。馴染みの場所となると自宅や家族様等の家、墓参り、美容室へ出かけられる事もある。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握した上で、生活の中で関わりが持てるよう一緒に作業に取り組んだり、レクを行ったり、コミュニケーションを取れる機会を作っている。			

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も主に管理者が連絡や相談を受け対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中などから希望や思いの把握に努めている。表現の困難な方は、表情や仕草、家様の意見を貰い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂くと共に、日々の会話や家族様からの追加の情報を収集し、記録に残しケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や様子を記録に残し、また職員間での情報交換で、入居者様の個々の現状把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを職員全員でとり、入居者様、家族様の要望を聞いた上で話し合い、現状にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、介護計画の実践は記録に記入し、気づき等は別のノートに記入、会議で話し合いプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、理美容や歯科受診、外出支援と柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流やボランティアの受け入れ、近隣の喫茶店の利用など楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、家族様も納得した上で、ホームのかかりつけ医の定期的な往診で、安心して適切な医療を受けられている。専門的な治療が必要な方は他科受診出来るよう支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により看護師に、定期的な日々の様子の報告や、体調変化時には都度報告、相談し指示を貰い早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が窓口となり、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、定期的に面会に行き状況を把握し、ホームでの対応が可能な段階で早期に退院出来る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けたマニュアル、重度化した場合の指針もあり、入居時に説明している。また、家族様と話し合いのもと方向性を決めている方も多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも確認出来るマニュアルも設置されており、また毎年の学習会で訓練を行い、実践で出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。近くに母体施設があり協力体制が出来ている。また、地域の消防団も訓練に参加、協力して頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた馴染みの呼び方や、その日の状態に合わせて言葉の声掛けしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情から思いをくみ取ったり、やりたい事、食べたい物、飲みたい物など、出来るだけ選ぶ場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者様のペースを大切にしながら希望に沿う様にしているが、行事等により職員のペースになる事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様が選び用意してくれており、日々の服を自ら選び着ている方もいる。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら一緒に食事し、出来る方には調理等の準備から片付けまで、それぞれの能力に合わせて一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事とも記録し把握する事で、それぞれの状態に合わせて提供する量を調節している。栄養が不足している方には補助食品を処方して頂き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケア出来るよう支援している。自力で行えない方は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて間隔を見て声掛け誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を把握し、毎日の体操や乳製品の提供をしている。排便がない場合は乳製品の摂取を多くしたり、個別に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制により全て希望通りには出来ていないが、一番風呂や同性介助といった、個々に沿った支援を行って気分良く入浴出来る様、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の状態に合わせて居室で休んで頂いたり、就寝の時間も日々の状態に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書により内容を把握し、服薬介助にて状態の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて家事の役割や、好きな番組を見て頂いたり、他階の訪問、塗り絵等の楽しみ事を提供している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事でバスレク、プチ散歩で近隣の喫茶店に出掛けたりホームの近くを散歩する他、本人の希望を聞いて可能な限り家族様に協力して頂き、出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方には家族様と相談し持ってもらっている。その他、買い物レク等で使う機会を持ち支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、いつでも電話や手紙のやり取りができるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは季節に合わせた装飾がされ、光や音、温度等その都度調整し、居心地良く過ごせるよう気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、小上がりと、一人になれたり少人数で思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、慣れ親しんだ小物を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札、トイレには目印など、わかりやすくしている。居室内のクッションフロアや各所の手すりの設置もされている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームグリーンピア

作成日：平成 25年 7月 10日

市町村受理日：平成 25年 7月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご意見箱や家族連絡帳の活用、面会時に要望等をお聞きするなどして、施設運営に反映させるように努めているが、未だ十分ではない。	より多くの率直なご意見やご要望をいただき、施設運営の改善に結びつける。	家族アンケートを実施する。より率直に答えることができるよう、法人が集約したり、匿名での回答も可とするなど、実施方法を工夫する。	5か月
2	4	運営推進会議に、2家族ずつご参加いただいているが、ご家族の意見の反映が十分ではない。	より多くのご家族の意見を頂き会議に反映させ、施設運営の改善に結びつける。	参加出来ないご家族からも意見を頂くよう、会議の運営方法を工夫する。	5か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。